

CONTENTS

60年間ありがとう!

●P1 特集

ワシントンヤシアルバム

●P3 新学科、新研究科誕生!

商学部 公共経営学科 / 大学院 都市経営研究科

●P4 「イノベーション・ジャパン2017」に5テーマ出展!

OCU TOPICS

●P5 RESEARCH / 高橋 秀也 教授 (工学研究科) ・金子 明 教授 (医学研究科)

●P6 RESEARCHERS / 吉村 典久 教授 (経営学研究科) ・玉上 麻美 教授 (看護学研究科)

●P6 STUDENT ACTIVITIES / ヨット部がインカレに初出場!

OCU INFORMATION

大学サポーターだより



60年間ありがとう！ ワシントンヤシアルバム



ワシントンヤシの成長記

ワシントンヤシは過去の資料から、昭和32年～33年ごろ卒業記念として50cmほどの苗木が30本植えられたと考えられています。そのうち1本は早い時期に枯れてしまいました。残りの29本はすくすくと成長を続け、学生運動が激しかった昭和44年ごろには、約5mに成長しました。写真右の幹の傷は火炎瓶によるもの。



植樹間もない昭和39年ごろ撮影



学生運動が激しかった昭和44年撮影



平成3年撮影



平成7年撮影



平成20年撮影



平成26年撮影

ヤシの木は平成になってもぐんぐん成長を続け、伐採前には高いもので23mを超えるまでになりました。市大生、卒業生をはじめとする関係者はもちろんのこと、近所の皆さまにも愛されてきたヤシの木ですが、樹木としての寿命に達していると考えられ、倒木や枯葉の落下等のリスクを避けるため伐採することとなりました。

私が市大に入学した1972年は、連合赤軍事件が起こった年で、学生運動の余燼がまだ残っていました。当時、ワシントン椰子も小さかったし、杉本キャンパスは何か荒涼とした風景だった記憶があります。あれから45年の間に、キャンパスが美しくなるにつれ、椰子の背丈もずいぶん高くなったものですね。時計台とのマッチングが好ましい風景を作っていましたが、あまりにも伸びすぎたと言っべきでしょうか。

脇村 孝平教授（経済学研究科）



平成29年6月12日(月)～22日(木)、杉本キャンパス1号館前の庭(通称:ワシントン広場)の周りで約60年間皆さまに親しまれていたワシントンヤシ(合計29本)が、惜しまれながら伐採・抜根されました。ロゴマークのデザインにも使用されるなど、市大のシンボルとしても愛されてきたワシントンヤシの60年を振り返ります。



伐採・抜根まで

伐採の前日である6月11日(日)には卒業生をはじめとする有志によるお別れ会「ありがとうワシントンヤシ 感謝の集い」が開催され、大勢の方が別れを惜しまれました。



最後の記念写真

応援団による
感謝のエール



6月12日(月)より大型クレーン車を用い伐採が始まりました。1本は葉の部分のみをカットしただけの状態で作成、その他は約2mごとにカットしながら少しずつ短くしていきました。15日(木)に最後の1本が伐採され、16日(金)より抜根が始まり22日(木)に作業は終了しました。

伐採後について

伐採したワシントンヤシの1本は記念に高原記念館前に展示されています。ワシントン広場は整備され、芝生の広場になりました。



新学科、新研究科 誕生!

2018年度より (**商学部に公共経営学科**) を設置します!
(**大学院に都市経営研究科**)

商学部 公共経営学科

商学部では平成30年4月から商学科に加え、新たに公共経営学科を設置します。公共経営学科では、「社会性」と「地域性」をキーワードに、非営利組織、公的機関、地域企業、CSR(企業の社会的責任)などについて重点的に学ぶ機会を提供します。

1年生から2年生前期の間は、学科には属さずに経営学、経済学、会計学などの基礎的な科目を学び、2年生後期からどちらかの学科に所属し、専門的な勉強を行います。いずれの学科の専門科目も並行して履修できるため、商学部学生として経営・商学・会計を体系的に学ぶことが可能です。

教育研究と娯楽の融合 「エデュテイメント」

平成29年8月25日(金)~27日(日)の3日間、杉本キャンパス田中記念館ホールにおいて、コメディ演劇「継ぐまちファクトリー」を上演しました。会場は笑いと涙と拍手に包まれ、3日間の来場者は400名を超えるという盛況ぶりでした。

新学科開設イベントとして「継ぐまちファクトリー」を上演!



父親の幽霊が息子に工場を継ぐよう説得する場面



工場に銀行の支店長が訪ねてくる場面



上演後には役者とゲストでアフタートーク



商学部/本多 哲夫 教授

せっかく新しい学科ができるので、まったく新しいイベントを立ち上げてみました。教育研究と演劇のコラボ企画です。「中小企業」を題材にした演劇を商学部教員の本多が書き、市大の学生劇団、劇団カオスに演じてもらいました。公共

営学科では商学部の科目のなかでも特に地域性と社会性の強い領域を学ぶことに特色があります。「中小企業」は地域性が強い企業ですので、新学科でも重要なテーマの1つなのです。

「継ぐまちファクトリー」はこちらからご覧ください→



大学院 都市経営研究科

Graduate School of
Urban Management

都市経営研究科(GSUM)は、現在の創造都市研究科(GSCC)を基盤としてスタートする、独立研究科です。授業は創造都市と同じ梅田サテライト(大阪駅前第2ビル)で、平日夜と土曜に仕事をしながら通えるので、どのような分野からでも意欲のある方は歓迎します。これからの都市に必要なまちづくりや公共政策、行政、ビジネス、医療・福祉などに

ついて、地域の再生とマーケティング、都市計画、アート、公民連携やPFI、地方行政、財政や会計、法政策、イノベーション、ベンチャー、ICTやAI、エネルギー、医療・福祉の経営や倫理などの新しい専門科目群を用意しています。また現場のリーダーとのワークショップ等参加型の科目を用意し、課題解決型の研究教育を行います。

都市政策・地域経済コース



永田 潤子 教授

まちづくりや地域振興においてマーケティングや民間・市民との協働などを活用し、個性を生かし効果をあげる持続可能手法など都市経営の基礎となる政策や経済を研究します。まちづくり、文化、地域振興、自治体会計、公民連携、新産業、商店街、都市計画/環境、不動産、観光などに関心のある人材を公共団体、プランナーなどから広く募ります。

都市行政コース



久末 弥生 教授

都市行政の最前線で活躍するアクティブリーダー人材に求められる、都市経営を支える実践的なガバメント/ガバナンス能力を、地方行政、法務・法政策、都市財政、社会政策、行政組織、行政評価など多様な研究アプローチを通じて習得していきます。公務員、地方議会議員、コンサルタント、メディア、経済団体、NPO、シンクタンク、各種専門職の方などから広く募ります。

都市ビジネスコース



近 勝彦 教授

本コースは、大きく3つの研究目的をもっています。第一は、「起業・事業創造」です。第二は、「事業改革・組織変革」です。企業や組織も古くなれば機能不全になることもあるでしょう。第三は、「ICT・AI」を活用した企業の効率化や新しい価値創造や新ビジネスを構想・創造します。都市型の新ビジネスを創造し、またはそれを推進・支援するような人々を養成します。

医療・福祉イノベーション経営コース



服部 俊子 准教授

医療・社会福祉・公益非営利サービスの利用者価値と労働者価値を高める、イノベティブでサステナブルな経営のあり方を研究します。医療機関、社会福祉施設・法人、非営利ソーシャルビジネス組織等の経営・管理・専門職で、自組織でイノベーションを実現する経営・組織変革を実践研究する、強い意欲をもつ方などから広く募ります。

※教員の所属・職名は2018年4月時点での予定です。

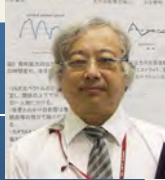
都市経営研究科のWebサイトはこちら ▶ <http://www.gsum.osaka-cu.ac.jp/>

「イノベーション・ジャパン2017」に5テーマ出展!

平成29年8月31日(木)・9月1日(金)、東京ビッグサイトにおいて、国立研究開発法人 科学技術振興機構 (JST)と国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO)の主催による国内最大規模の産学マッチングイベント「イノベーション・ジャパン2017」が開催され、本学は5テーマを出展しました。このイベントは今年で14回目を迎え、全国から500を超える大学、ベンチャー・中小企業等が出展し、総入場者数は2日間合わせて25,703名にものぼり、会場は熱気に包まれていました。

複数の監視カメラによる歩行する人物の追跡

工学研究科 電子情報系専攻
中島 重義 准教授



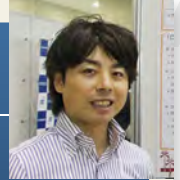
歩行する人物の歩行パターンを周波数分析することで、複数カメラの映像間で服装や荷物の変化があっても同一人物か判断可能。



31日の午後初めにセミナー会場で発表をした時も聴衆の方から興味を持っていただきました。ポスター前の発表では多くの方に来ていただき、中には法務大臣の上川大臣も訪問くださいました。研究の内容に関して、来客の方から、健康管理やあるいは人間以外への応用も提案していただき、実りある発表でした。

リアルな体験と空間認識を容易にする災害訓練ARアプリ

創造都市研究科 都市情報学専攻
吉田 大介 准教授



避難所やAEDなどの防災関連施設、訓練向けの仮想災害を端末の画面上に可視化するARアプリを開発。



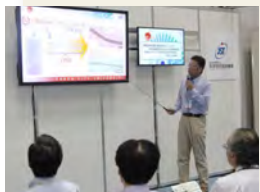
自動車、電気、建設、出版、情報関係などの企業にご訪問いただき、中には自治会での防災活動について熱心に相談される方もいらっしゃいました。発表したアプリは基盤部分を開発し、実験的に防災訓練で活用し始めた段階です。今後、自治体や企業などと連携し、防災・減災以外にも活用可能なアプリに進化させていきたいと考えています。

細胞製剤調製や薬剤スクリーニングに好適な細胞スフェロイドの迅速作製法

工学研究科 化学生物系専攻
立花 亮 准教授



高価で特殊な培養基材を使用することなく、細胞スフェロイドを1時間以内に形成できる方法を紹介します。



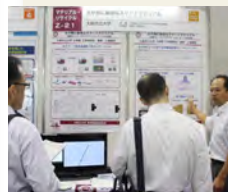
スフェロイドという細胞の塊の作り方というマニアックなことでしたから、どうかと思っておりましたが、スフェロイドを知る方からは非常に面白いと言ってくださいました。学会とは違う目線からのディスカッションをしていただきました。いろいろな業界と連携して、さまざまな応用ができればと考えています。

光や熱に敏感なスマートマテリアル

工学研究科 化学生物系専攻
小島 誠也 教授



光スタート型低温温度上昇センサーラベルとして使用可能な新材料を紹介。



低温温度上昇センサーラベルは低温輸送や医薬品輸送・保管の際の手軽な示温ラベルとして重要であるが、これまではあまり良い材料がなく、実現が難しいと思われていました。我々の開発した光スタート型低温温度上昇センサーラベルは低温輸送・保管の管理が可能であり、印刷、インク、粘着剤、電子機器、自動車、化粧品業界など100社以上の企業の方々にお立ち寄りいただき、研究開発内容に興味を持っていただきました。この中から1社でも共同研究につながることであればと期待しています。

大学組織展示

健康計測社会システム

~疲労の可視化を中核とした健康科学サービスの社会実装~

健康科学イノベーションセンター
堀 洋 特別研究員



疲労の可視化を中核とした健康科学サービスの社会実装において、すでに実現している産学連携活動の成果を紹介。



疲労度測定機器、コミュニケーションロボット、各種抗疲労/疲労回復ソリューションなど健康科学イノベーションセンター関連の展示・体験やMedCity21の紹介などに多くの方々立ち止まっていただけました。産・学・官・医・消費者の連携を通じた健康科学領域の新たな成果や製品・サービス、より身近な健康科学イノベーションの創出が可能な場にも触れていただけたと思います。





RESEARCH

熱中症の予知・警告を可能に! ウェアラブルコンピュータによる衣服内温度の 測定から深部体温の予測を実証



岡崎教授と高橋教授

工学研究科電子情報系専攻 ^{たかし ひでや}高橋秀也教授、
都市健康・スポーツ研究センター ^{おかざき かつのぶ}岡崎和伸
教授の研究チームは、大阪市消防局の協力
のもとウェアラブルコンピュータを用いた実験
を行い、衣服内温度により深部体温を予測で
きることを実証しました。

今回の実験は、都市健康・スポーツ研究セ
ンターの人工気候室内で20代～50代までの
隊員に消防服内にウェアラブルコンピュータ
を装着した状態で活動してもらい、深部体温

(食道温)、皮膚温、衣服内温度、身体活動量
などを測定しました。既に信州大学 能勢博
教授らが、衣服内温度により深部体温を予
測するアルゴリズム(一般人を対象)を明ら
かにしていますが、今回このアルゴリズムが
火災現場を模した条件下において衣服内温
度の変化から深部体温を推定するのに有効
かどうかを検証しました。消防服は耐熱性
に優れる反面、発汗や皮膚温度の上昇による
熱放散を抑制し熱中症を誘発しがちなた
め、消防服着用時の熱中症対策が必要です。
実験の結果、深部体温の実測値と、衣服内温
度から深部体温を予測するアルゴリズムを
用いて求めた値が、極めて近いことが確認
できました。本部や現場で退院の衣服内温
度を監視することにより、熱中症の予知や警
告が可能になります。

今後は大阪市消防局の協力のもと、実際
の消防隊員の消防活動時の動きを再現し実
証実験を重ね、消防隊員用にパラメータやアル
ゴリズムの修正を検討していきます。



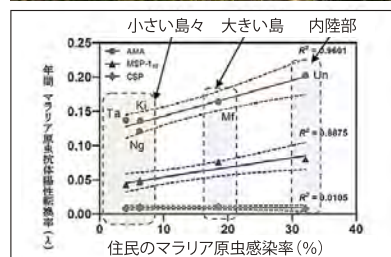
システム概念図

マラリア根絶に向けて～ ケニア現地調査報告: 地域特性により感染伝播・免疫応答に差

治療が遅れると死に至る危険性があり、ま
た原虫の薬剤耐性も問題になっているマラリ
ア。依然として発症者は年間2億1,400万人、また
死亡者は43万8,000人(World Malaria Report
2016)と推定され、その病害の90%がサハラ
以南の熱帯アフリカに残っています。抗原虫
免疫の獲得が未熟な5歳以下小児で死亡率
が高いことから、WHOなどを中心に根絶へ向
けた取り組みが行われています。

マラリアは地球規模で貧困をもたらす要因
と考えられています。この21世紀人類にとっ
ての優先課題に対して、医学研究科寄生虫学
の金子明教授らの国際マラリア研究ベン
チャーグループは、2011年からスウェーデン
のカロリンスカ研究所、ロンドン熱帯医学校、
長崎大学熱帯医学研究所と共同でケニア・ビ
クトリア湖地域でのマラリア伝播の特性を明
らかにするフィールドリサーチを継続してき
ています。その成果として、当該地域住民のマ
ラリア原虫感染率が人口や他地域との交流
の度合いに相関し、小さい島、大きい島、そし

集団投票のための個別訪問活動、市大学生も参加
(ケニア・ビクトリア湖オコデ島、2015年2月)



て内陸部と高くなっていくこと、そしてこの違
いが住民集団のマラリア原虫に対する獲得
免疫成立のスピード(感染力)に反映されて
いることを明らかにしました。これらの新たな
知見は、今後当該地域で計画されているマラ
リア撲滅を目指した介入研究において、その
戦略を確立する上で極めて重要な意義があ
ると考えられます。本研究成果は国際学術誌
Scientific Reportsに掲載されました。

研究者 クローズアップ



工学研究科 高橋 秀也 教授

美味しい物を飲んだり食べたり
するのが一番のストレス解消法、出
張先でもその土地ならではのもの
が楽しみです、と語る高橋教授。も
ともお酒が好きで日本酒でもワ
インでもお酒の種類は問わないそ
うです。人との繋がりを大切にする
高橋教授にとって、お酒の席は打
ち解けて会話を楽しめる場、研究
を進める上でのコミュニケーション
により影響を与えることも多い
とのこと。身体のためには何か運
動もしたいですね、と元体操選手
らしい思いも持つ高橋教授でした。



研究者 クローズアップ



医学研究科 金子 明 教授

自身もこれまでに2度マラリア
に罹りながらも、精力的に世界中
を飛び回る金子教授。既に還暦を
迎えていると聞いてびっくり!とて
もそうは見えません。元気の源は
何ですか、と尋ねると、となりでP
Cに向かっていて秘書の方が親指
と人差し指をクイツとする例の動
作。インドネシアではトゥアックと
いうヤシ酒、バヌアツではカバと
いう植物の根っこ、ケニアではタ
スカーのビールを友にされていた
ようです。



RESEARCHERS

経営学研究科 よしむら のりひさ 吉村 典久 教授

今年度より経営学研究科に赴任した吉村教授の専門は企業統治および経営戦略論。本学では経営管理論を担当しています。

企業統治は、大きく分けるとファイナンス面と人的な面と二つの側面から考えられることが多いのですが、吉村教授は人的な面に重きを置いて企業統治について考えています。研修や調査のためにさまざまな企業を訪問する機会が多くありますが、トップの方の話を聞くだけでなく、必ずミドル層の声にも耳を傾けるそうです。実際に働いている従業員のナマの声は特に貴重ということで、公式な場のみならず、懇親会など本音が聞かれる場にも出かけ、ミドル層が企業経営全般やトップ層にどうい

を抱いているのかを聞き取っています。現場で得る情報は何よりもよい研究材料となっているようです。

今春話題となった大手百貨店の社長解任騒動も社長がミドル層にそっぽを向かれた結果と分析します。社長は普段より幹部を含む従業員と対話を持つなど、従業員の声が組織のトップに届く仕組み作りが重要である、という吉村教授の考えは経済新聞や経済誌にも大きく掲載されました。現在は従業員の声が経営に反映される仕組みが整っているドイツの企業統治や経営に注目し、日本との比較研究にも意欲を燃やしています。



◆アナザーサイド

お子さんが小学1年、3年、5年と遊びたい盛りのため、休日はもっぱら忍者の里など名所旧跡ヘレジャーに出かけることが多いという吉村教授。読書家でもあるため、忙しい時間の合間を縫い経済や経営関係をはじめ小説まで、幅広いジャンルの読書を楽しんでいます。研究室に飾られた、お子さんと組み立てたブロックの戦艦に愛が感じられました!

看護学研究科 たまうえ まみ 玉上 麻美 教授

玉上教授は本学医学部附属看護専門学校を卒業後、助産師の資格を取得し、医学部附属病院で助産師として勤務していました。その経験を生かし、現在母性看護学の講義と臨地実習を担当しています。助産師としての病院勤務時代、流産を経験された妊婦や女性の支援の難しさを痛感したことがきっかけで、流産した女性や不妊治療後に流産を経験された女性への支援について研究を続けています。流産を経験した女性は、困難な状況から自身の力で回復し立ち直る力であるレジリエンスを有しますが、このレジリエンスを促進させる援助について考えています。

また、子ども虐待が多い中、妊娠中からの育児支援を通して子ども虐待を予防する支援についても研究しています。マタニティセミナーで妊婦への講演を担当していますが、少しでも妊婦に役立つことを実践したいと思っているそうです。

看護学科では助産師の資格は取得できませんが、玉上教授は学生たちがお母様と赤ちゃん2人の生命を守り、新しい家族の出発を支援できる助産師を目指してほしいという思いを胸に、講義だけでなく、医学部附属病院での臨地実習の指導も担当しています。



◆アナザーサイド

小さい頃よりよく海に出かけ、一通りマリンスポーツを試した後、一番性に合ったのがダイビングという玉上教授。海に潜ると胎内にいるように感じるそうです。病院勤務時代から年に一度は潜りに行き、リフレッシュ! 一番の思い出はオーストラリアに体長30cmもあるウィーディーシードラゴンというタツノオトシゴを見に行ったことと、撮影した写真とともに微笑む玉上教授でした。

STUDENT ACTIVITIES

ヨット部がインカレに初出場!

平成29年9月14日(木)~17日(日)、神奈川県葉山において「全日本学生女子ヨット選手権大会」が行われ、神田七海さん(経済学部3年生)と西口葵さん(商学部2年生)の2人がスナイプ級に初出場しました。

合計34チームが参加し、33位という悔しい結果となりましたが、二人は、「今回のレースを通して、苦手としていた困難な局面をその場で解決するということ、克服することができました!」と語ってくれました。今回の経験が大きな成長に繋がることを期待します。



左より神田七海さん、西口葵さん(大阪北港ヨットハーバーでの練習風景)



教育後援会共催事業

保護者交流会就職講演会プログラム 「あなたは就職活動の良きサポーター」を開催しました!

平成29年9月9日(土)、本学は教育後援会との共催で田中記念館ホールにおいて、保護者向け講演会「あなたは就職活動の良きサポーター」を開催しました。就職をテーマにした保護者向けの講演会は初めての試みでしたが、300名を超える皆さまにご参加いただきました。

荒川学長のあいさつ、池山就職支援室長による本学就職状況の説明に続き、リクナビ副編集長山下大輝氏による「保護者のための就活応援講

座」がありました。保護者の皆さまは真剣な表情で、熱心にメモを取りながら話を傾けていらっしゃいました。

プログラムの最後に、パフォーマンス心理学の第一人者 佐藤綾子博士より「心が伝わる頼れるサポーターになろうー 保護者の考え方と自己表現のコツ」というタイトルで講演がありました。お話は幅広い交友関係についてから始まり、姿勢や表情で心理状態が伝わってしまうことまで、興

佐藤綾子博士
による講演



味深い内容ばかりでした。「口角を上げて笑顔で前のめりにお子様と接してください」という言葉に、保護者の皆さまは大きくうなずいていらっしゃいました。

今後も本学は教育後援会と協力して保護者の皆さまに向けた企画を継続的に開催していく予定です。

大学サポーターだより

全てのお問い合わせ 大学サポーター交流室 TEL:06-6605-3607/3415
E-mail: yumekikin@ado.osaka-cu.ac.jp

大阪市立大学カードが誕生します! 「あなたと大阪市立大学をつなぐ一枚」

大阪市立大学と三井住友カード株式会社との提携により誕生した「大阪市立大学カード」は、大阪市立大学を応援していただける方であれば、どなたでもご入会いただけます。通常のクレジットサービスを利用できることに加え、独自の特典(理学部附属植物園・入場料無料、健康科学イノベーションセンター・健康見守り隊年会費割引等)を受けることができます。さらに、利用額の一部が大阪市立大学の教育、研究、学生支援、医療・保健推進などに活用される仕組みになっています。



あなたと大阪市立大学との絆を大切にするための証としてお持ちになりませんか。詳しくは本学ホームページをご覧ください。

大阪市立大学 大学サポーター支援 [検索](#)

古本募金を開始しました! 読み終えた本を大学の発展のために活用させることができます

皆さまのお手元に、読み終えた本は眠っていませんか。古本募金は、皆さまから読み終えた本をご提供いただき、その査定換金額を大学に寄附する取り組みです。この機会にぜひご協力をよろしくお願いたします。



～お申込みからお引き取りまで～

お電話または本学ホームページよりお申込みください。宅配業者がご自宅まで引き取りに伺います(5点から送料無料)。読み終えた本の他、不要になったDVDやCDも古本募金の対象として受付いたします。詳しくは本学ホームページをご覧ください。

ご寄附をお考えのみなさまへ [検索](#)

大阪市立大学へ 寄附をお考えのみなさまへ

『大阪市立大学夢基金』では、寄附者の意向を反映できるよう寄附の使い道(使途)を選択いただけます。また、ふるさと納税を活用した『大阪市ふるさと寄附金』では、“市立大学振興関係”を選択することにより、大阪市立大学のために活用される仕組みになっています。

皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。



市大グッズ好評発売中! [市大グッズ](#) [検索](#) 杉本キャンパス生協「シェリー」、阿倍野キャンパス生協「リンク」にてお求めください。

NEW!
かわいいがま口 各種 680円 (税込)

NEW!
Osaka City University
NEW!
ペナント 680円 (税込)

NEW! 「桜花爛漫」の歌詞入り扇子 2,400円 (税込)

大阪市立大学広報誌

CITY UNIVERSITY

Vol.25

発行：公立大学法人 大阪市立大学
企画・編集：法人運営本部 広報室
デザイン協力：desk
発行日：2017年10月

本誌に関するお問い合わせ・ご意見・ご感想は
大阪市立大学 法人運営本部 広報室
〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138
e-mail: t-koho@ado.osaka-cu.ac.jp

本誌に掲載の写真および原稿の無断転用を禁じます

グローバルな都市研究・教育拠点



大阪市立大学
OSAKA CITY UNIVERSITY

杉本キャンパス

商・経・法・文・理・工・生活科学 各学部・各大学院研究科
〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

阿倍野キャンパス

医学部・大学院医学研究科・大学院看護学研究科・医学部附属病院
〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3

梅田サテライト

大学院創造都市研究科・文化交流センター
〒530-0001 大阪市北区梅田1-2-2-600 大阪駅前第2ビル6階

<http://www.osaka-cu.ac.jp>